

第1回医事業務研究会 (新任者教育基礎講座No. 1)

- 日 時 令和6年10月11日(金) 10:00~16:00
- 開催方法 ハイブリッド開催
(会場：岡山県医師会館 401会議室・402会議室)
- 出席者 35病院 62名 (うち会場25名)

新任者教育基礎講座の第1回目は、許可病床が「20床から99床」、「100床から199床」、「200床以上+精神科」の3グループに分かれ、午前「受付から請求まで」を、午後からは「診察料」と「医学管理料等」についてテキスト及びスライドを使用して講義を行った。

「受付から請求まで」の講義では守秘義務・個人情報保護法に加え、医療事務、医療保険制度などの概要や基本事項、病院職員としての心得などをわかりやすく解説した。

「診察料」については初診料・再診料・外来診療料などの基本的な算定方法や加算に対する注意点、考え方の説明を行った。

「医学管理料等」については、数多くある医学管理の中から各グループで算定頻度が高い項目について取り上げ具体的な内容や算定のルールなどを解説した。

各講義の最後には練習問題を解き、回答と解説を行うことで受講者の理解を深めた。(医事業務委員 南石良子)



▲受講風景(Bグループ)



▲受講風景(Cグループ)

第2回医事業務研究会 (新任者教育基礎講座No. 2)

- 日 時 令和6年10月23日(水) 10:00~16:00
- 開催方法 ハイブリッド開催 (会場：岡山県医師会館 401・402会議室)
- 出席者 35病院60名 (うち会場25名)、委員13名

第2回は、「在宅医療」「投薬」「注射」「処置」について、テキストとスライドを用いて講義を行った。

「在宅医療」は、往診料と在宅患者訪問診療料の違いや、令和6年度の診療報酬改定で新設された救急患者連携搬送料の解説、第2節の在宅療養指導管理料の代表的な項目を取り上げ、算定における留意点を解説した。「投薬」については、薬剤の区分と見分け方、調剤料、処方料の算定留意点、薬剤料の計算方法(五捨五超入)等について解説した。「注射」については、入院と外来、6歳未満の乳幼

児などの注射実施料の算定方法の違い、薬剤料の計算(五捨五超入)、特定保険医療材料などについて解説した。「処置」については、処置の種類、通則や通知、基本的な算定の留意点等、具体的な算定例を示し、実際に診療報酬点数表で点数を確認しながら説明した。

各講義の最後には、スポット例題を解いてもらい、回答の解説を行いより理解を深めた。

(医事業務委員 西崎幸子)

第3回医事業務研究会 (新任者教育基礎講座No. 3)

- 日 時 令和6年11月11日(月) 10:00~16:00
- 開催方法 ハイブリッド開催 (会場：岡山県医師会館 401・402会議室)
- 出席者 35病院60名 (うち会場25名)、委員13名

第3回は、「手術」「麻酔」「検査・病理診断」について講義を行った。

「手術」では、手術料に含まれる処置の費用や注射の手術料、施設基準の届出が必要な場合があることなど、手術の基本的事項を説明した上で、対称器官・同一手術野等の考え方について具体的な例示を用いて解説した。

「麻酔」では、各種麻酔を算定する際に注意すべきポイントを中心に説明を行ったが、特に全身麻酔時の体位、麻酔困難な患者に該当する場合の計算方法を重点

的に解説した。

「検査・病理診断」では、通則や算定上の一般的事項を中心に、検体検査・生体検査及び病理診断の算定における留意点を説明した。

各講義の最後には、点数計算やレセプト記載方法等の練習問題を、講師が解説を交えて解答することで、内容の理解を深めた。

(医事業務委員 難波龍鋭)

第4回医事業務研究会（新任者教育基礎講座No.4）

- 日 時 令和6年11月22日(金) 10:00~15:55
- 開催方法 ハイブリッド開催（会場：岡山県医師会館 401・402会議室）
- 出席者 35病院60名（うち会場25名）、委員13名

第4回は、病院機能別グループ(急性期(DPC含む)、ケアミックス、精神科)に分かれて講義を行った。

午前に「画像診断」「リハビリテーション」、午後に病院機能別入院料について講義を行った。研究会の最後に4回全ての講義に出席した受講者(計58名)に修了書を授与した。

【画像診断・リハビリテーション】

「画像診断」では、エックス線診断料、核医学診断料及びコンピューター断層撮影診断料の通則、算定の留意点、及び算定に当たって解釈の説明を行った。また算定例を示しながら、点数の内訳を解説した。

「リハビリテーション」では理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の説明をした。また疾患別リハビリテーションの通則、対象疾患、標準的算定日数、各種加算などを中心に解説した。

各講義の最後、練習問題を講師と受講者が一緒に解き内容の理解を深めた。

(医事業務委員 安部雅之)

【急性期(DPC含む)グループ】(15病院33名出席)

急性期グループでは、入院基本料の算定の原則、算定期間の算出、施設基準、看護必要度、入院基本料等加算、入院時食事療養費についてそれぞれ要件を確認しながら説明を行った。特定入院料については概要を説明した上で、特定集中治療室管理料と地域包括ケア病棟入院料を実例に、算定点数や包括項目の違いを解説し、練習問題を解いて理解を深めた。DPCについては制度の概要、診断群分類決定に至るツリー図の構造と見方、包括評価点数及び日数の設定方法、包括評価と出来高評価の違い及び包括評価の算定方法、各種係数等について説明を行った。

(医事業務委員 高田知行)

【ケアミックスグループ】(16病院22名出席)

ケアミックスグループでは、入院料算定の基本事項として、入院治療計画の策定や療養環境の提供、医療安全及び感染防止対策や褥瘡対策などを説明した。また、入院時食事療養費や外泊の考え方、入院中の他医療機関受診時の入院料減算等について詳しく説明した。特定入院料では、回復期リハビリテーション病棟入院料、地域包括ケア病棟入院料を主に取り上げ、特徴と算定要件について説明した。療養病棟入院基本料では、一般病棟との違いや令和6年度改定により細分化された医療区分、ADL区分を用いた入院料の選定方法について説明した。DPCでは、制度導入の経緯から診断群分類の概要、ツリー

図を使用したコーディングを例に実際の算定方法や基礎構造について説明した。

(医事業務委員 平内大輔)

【精神科グループ】(5病院5名出席)

精神科グループでは、「画像診断」は画像をみながら算定方法や注意事項等の説明をした。「リハビリテーション」は疾患別のリハビリテーションについて、対象疾患・標準的算定日数等基本的な考え方を説明した。「精神科専門療法」については基本的な考え方を説明した。精神科独自の考え方、保険請求のポイント・留意点も具体例をあげながら説明を行った。入院料では通則について話したのち、精神病棟入院料・特定入院料の違い加算・包括について説明を行った。外泊(精神科独自のこと)・入院時食事療養費について注意事項、確認のポイントを伝えた。項目ごとにスポット例題を解き講義の理解を深めた。

(医事業務委員 石田浩子)



▲4回継続受講者(右)へ修了書授与



▲講師の医事業務委員の皆さん